

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500767
法人名	有限会社 オアシス
事業所名	グループホーム ぽかぽか
所在地	伊予郡砥部町高市1318番地
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな山間部にあるホームでの生活は、四季の移り変わりを体で感じることができます。ホームの側にある畑では利用者と職員と一緒に野菜作りを行います。畑の手入れ、調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、クラフト作業などを通して、利用者個人のできる力を大切にしています。地域の行事にも参加し、ホームでの行事にも声かけしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧広田村に立地する唯一の事業所で、山間部の自然豊かな環境である。玄関と居間は共に家庭的な雰囲気づくりがされており、利用者も穏やかに過ごされている。管理者と職員は理念を共有して利用者の暮らしを支えていることが、利用者の穏やかな表情や行動から伺うことができる。地域の情報を得て地域の行事に参加し交流を深めており、近隣住民から「野菜ができたので、取りにおいで。」「(利用者が)家に来とるから、迎えに来て。」と電話があるなど、密接な関係も築いている。近隣には小学校もあり、職場体験に訪れたり小学校の運動会に参加するなど、相互の交流もできている。法人内の別の事業所と一緒にイベントを開催することがあり、よく双海の海岸が見える場所まで出かけている。また、協力医と24時間体制で連携が取れており、往診による健康管理や急変時にも迅速に対応ができ、利用者や家族には安心感が得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ぽかぽか

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

大平 真里子

評価完了日

26 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) リビングに運営理念を掲示している。ミーティングの際に理念について確認し、職員へ意識づけしている。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作成した理念を継続しており、居間に掲示し職員はいつでも確認できるようになっている。理念についてミーティング時にも話し合い、利用者の日々のケアに繋げている。理念を職員が覚えているか、代表者は時々聞いて確認している。管理者と職員が理念を共有して利用者の暮らしを支えていることが、利用者の穏やかな表情や行動から伺うことができる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的に散歩することで、地域の方が利用者のことを知っていて下さる。今年度は近隣の小学校からの声掛けで利用者との交流も行うことができた。</p> <p>(外部評価) 回覧板や運営推進会議等で地域の情報を得て、小学校の運動会や地域交流会などの地域行事にも積極的に参加し、地域との交流を深めている。散歩時には近隣住民と挨拶を交わすなど顔馴染みの関係になっており、野菜のおすそ分けを持ってくる関係づくりができています。小学生の職場体験を受け入れたり、小学校の運動会の練習の見学に行く等、相互の交流をしている。また、毎週以前働いていた職員の訪問があり、歌や演奏、紙芝居などのボランティアをしてくれ、利用者は楽しみにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を利用して、認知症について一緒に考える機会を作っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 出席した方には、会議内でホームへの意見や要望を聞くようにしている。また、欠席者にも案内ハガキを通して要望を伝えて頂くようお願いしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地域住民、民生委員、介護相談員、町担当者等が参加して開催している。イベントに合わせて開催したり、法人内の別の事業所と合同で開催することもある。会議では事業所の活動状況などの報告を行い参加者と意見交換をするほか、口腔ケアなどのテーマを決め講師を招き講演してもらうこともある。参加者はテーマによって異なるが、利用者全員が参加することもある。また、会議内容は職員全員に報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただいたり、分からないことがあれば町の担当者へ連絡するようにしている。	
			(外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加してもらい、意見をもらっている。介護保険制度など分からないことは町担当者に聞いたり相談したりしている。町主催の研修会の案内があり、職員は参加している。また、月1回介護相談員の訪問があり、利用者一人ひとりに話しかけてくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束を行わないというホームの方針で支援しているが、骨折入院し退院後間もない利用者など、やむを得ない場合にのみ家族の同意を取り実施。	
			(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、拘束をしない方針など勉強会を行い職員は理解して実践している。外部研修に参加した場合には、新たな情報を職員全員に伝達している。日中玄関の鍵はかけられておらず、利用者は自由に出入りしている。一人で外出しようとする利用者には、見守りながら外出する気配を察知したら一緒に出かける対応をしている。また、職員が知らないうちに利用者が一人で出かけることもあり、近隣住民が知らせてくれたこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内での研修などで見直す機会を作っている。利用者への言葉づかいについては職員同士で注意するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今後のことも考えて研修等で学ぶ必要があると思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は、利用者や家族からの要望と疑問をお聞きし、説明するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を利用して家族と外部者との意見交換をしている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で利用者から意見を聞いている。家族には面会時に意見を聞いているほか、運営推進会議に参加するように呼びかけて意見を聞いている。出された意見は職員間で話し合い、代表者や管理者に相談して必ず対応するようにしている。参加できない家族にはハガキに意見を書いてもらい、会議の参加者と話し合いをしている。家族から「運営推進会議の内容を知らせてほしい」という意見が出されたため、会議録を送付し要望に応じている。毎月利用料の請求時に、利用者の状況も合わせて報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングを行い職員からの意見や提案を聞くようにしている。 (外部評価) 管理者は職員が気軽に意見が言える環境づくりに努めている。ミーティング時にも職員は意見を伝えることができ、出された意見は職員間で話し合いをしている。対応できない場合には、管理者が代表者に伝え対応している。研修には勤務扱いで参加することができ、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得者には賃金等の見直しをしている。休日の希望については可能な限り要望を取り入れるようにシフト調整をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修や資格取得に向けて職員へ積極的に呼びかけている。優先的にシフトの調整を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同一法人の事業所と定期的に交流し、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 新規入所時には、利用者本人との会話の時間を多くとるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前の様子や、入所後の要望など気づいた時に話していただけるように伝えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の要望を聞き、ホームでの生活で可能な限りはケアプランに取り入れるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支えるという姿勢を大切にし、安心して暮らしていただけるような関係作りを行っている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には本人との時間を大事にいただき、本人より家族へ伝えられた希望を職員に伝えていただけるよう話している	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昨年より地域ごとの交流会への案内をいただき、出身者が参加している。今後も継続していきたい。 (外部評価) 家族が利用者の友人を連れて来てくれることがあり、利用者は楽しい時間を過ごしている。家族に依頼し、お墓参りなど馴染みの場所に出かけている。法人内の別の事業所と合同でよくイベントを開催しており、双海まで出かけて交流を深めており、利用者同士の新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者9人が共同で一つの物を作ったり、同じ空間で過ごすことにより利用者同士の関わりが来ている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家族の希望で他施設への移設が決まった利用者に対しては、情報提供書を作成した。退所後に移設先の関係者から連絡があり様子を聞いた。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりとの会話をし本人の思いを聞き出すように心がけている (外部評価) 職員は日頃から利用者によく話しかけることを大切にして支援をしており、日々の会話の中から思いや意向を把握するよう心がけている。はっきり意見を言う利用者も多く、利用者同士の言い合いになることもあるが、職員が間に入ったり、利用者の座る場所に配慮したりしている。新たに得た情報は、申し送りや毎日の経過記録に記載し、職員間で共有し日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の会話の中から家族のこと、生活歴を聞いている。面会の時に家族にも聞くようにして、内容を照らし合わせている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々観察している。残された力、好みなど能力の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 夜勤者、日勤者それぞれの気づきや意見を聞くようにして、介護計画に反映させている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映し、職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、利用者の状況の変化がある場合にはサービス担当者会議等で話し合い、介護計画の見直しをしている。目標の実践状況は毎日チェックをし、職員間で統一したケアが行えるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 気づいたことを日々記録に残し、職員同士で話し合い介護計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じてその時々で対応していきたい	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ホームでの行事には地域のボランティアの方が協力してくださっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所の際に往診対応について説明と同意を得ている。家族の 希望で受診する際には協力をお願いしている。	
			(外部評価) 事業所は山間部にあるため、往診のある協力医をほとんどの 利用者はかかりつけ医としている。協力医と24時間体制で連 携が取れており、急変時にも迅速に対応できることから利用 者や家族には安心感が得られている。耳鼻科や眼科等の専門 医は、家族の協力を得て受診してもらい、家族が同行できな い場合には職員が受診介助している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の支援の中で、いつもと違う気づきがあれば看護師に連 絡している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中も病院関係者や家族から情報を得ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りを希望されている家族が多いので、今後必要になっ てくると思う	重度化や終末期のあり方は、利用者や家族にとっては 大切なことであり、看取りを希望する場合には医師や 看護師、介護職員などチーム体制で支援することが求 められるため、職員間で体制づくりについて話し合い をしたり勉強会も継続して行ったりすることを期待し たい。
			(外部評価) 「看取りに関する基本指針」を作成している。入居時に利用 者や家族が看取りケアを希望し、事業所内で対応できる場合 には看取りを行えることを説明し、意向を確認している。事 業所での看取りの経験はないが、法人内の別の事業所で経験 しており、情報を得ている。看取りの体制づくりは勉強会も 含めてこれからの課題となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に二回の消防訓練を利用した救命講習、看護師による個別指導を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し、消防訓練の際や災害の時期には職員にも意識づけするようにしている。	
			(外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力を得て実施している。町と合同での防災訓練にも参加し、利用者と一緒に近隣の小学校の避難場所に実際に避難したことがある。訓練には町の協力を得て地元の消防団にも参加してもらい、事業所内の見学と合わせて訓練を行うなど協力関係を築いている。運営推進会議で地域住民にも災害発生時には協力をお願いしており、近隣でも困りごとがあれば事業所として協力できることを伝えている。また、水などの備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いや声かけの位置など気をつけて対応している。	
			(外部評価) 利用者の個人的な話をする場合は、居室で聞くようにしている。トイレ誘導時に大きな声や必要以上の声かけなど配慮に欠ける対応には、その都度管理者は注意している。トイレの出入口は厚めのカーテン扉で、使用してない時にはカーテンは開けているため、使用時には必ず確認することができる。	トイレの出入り口はカーテンのため、排泄時には水の流れる音や臭いなどが他の利用者などから気になっていないか、未使用時にトイレが開放されていることに違和感がないかなど、利用者のプライバシーの面も考慮して職員間で話し合うことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人からの意思表示がない場合は、こちらから気をつけて希望を聞き出すようにし、自己決定できるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 共同生活を行っているので、最低限の日課は決めているが、その他は本人の意向に合わせている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服装を選択できる方はご自身で着替えを用意している。重ね着をしたり、季節感のない服装の場合は、声掛けするが、無理強いはいしない。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の収穫、下ごしらえなど参加できる利用者には手伝っていただいている。	
			(外部評価) 職員が食材の買い物に行き、献立は食材を見てその日のに考え職員が調理している。朝食は夜勤の職員が作っている。食前には口腔体操を行い、職員は利用者と同じテーブルを囲み、同じものを職員が交替で食べている。利用者は食事の下ごしらえや配膳、後片付け、洗い物などできることを手伝っている。利用者の状態に合わせて刻み食等工夫を行い、畑で採れた新鮮な旬の野菜が食卓に上るなど完食される利用者も多く、楽しみにもなっている。また、外出時を利用して外食をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量は個人ごとに対応している。食事量、水分量がしっかり摂れるように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後は行っていない。利用者の気分に合わせて声かけし行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表へ記録し、出来るだけトイレでの排泄を目指して支援している。オムツの使用についても種類を検討している。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握して支援している。夜間にはポータブルトイレを使用したり、睡眠を優先したりする利用者もいるなど、一人ひとりに合わせた排泄支援をしている。昼間には誘導してトイレでの排泄ができるよう心がけている。排便状況も把握し、利用者の状態に合わせてかかりつけ医と相談し、緩下剤等使用する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の体質に応じて対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決めている。時間帯は本人の状況に応じて順番を決めている。	
			(外部評価) 夏は週3回、冬は週2回を基本として入浴することができる。入浴日を決め、午前中～午後3時頃までに9人全員の入浴支援をしており、入浴する順番はその日の利用者の状況で決めている。ゆっくり入浴を楽しみたい利用者やぬるめなお湯を好む利用者は、最後に入浴してもらうようにしている。入浴日は利用者の居室に記録し、清潔保持に努めている。入浴を拒む利用者にはタイミングを図りながら何度か声かけをする工夫をしているが、難しい場合は無理強いしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 決まった日課以外は本人の自由でリビングで過ごしたり、居室で休んだりされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が管理し、職員に周知している。服薬の確認の徹底、症状の変化について看護師に連絡している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれにホームでの役割を持てるように利用者の出来ること、楽しみを見つけるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ホームの周りには自由に出来るようにしている。個別の外出については、家族の協力を得ている。	
			(外部評価) 天気の良い日には近所を散歩している。地域の行事に参加したり、近隣の小学校の運動会の練習などを見学したり、畑へ野菜づくりに出かけるなど、外出する機会が多い。伊予市双海町にある同法人が運営する事業所での合同イベントに参加することが多く、海の絶景を眺めることができる。また、季節に応じて、つくしやヨモギを取りに行ったり、菊花展やサーカスなどにドライブで出かけられるよう支援している。個別の外出は家族に協力をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の所持はしていない。必要な物があれば家族に相談し、購入するようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 難聴の方が多く、電話は使用していない。手紙のやり取りをしている利用者はいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居住空間の清潔保持に努め、壁面は利用者と共同し作成、飾り付けを行っている。	
			(外部評価) 玄関から居間にかけて家具を工夫して置くなど、家庭的な雰囲気づくりをしている。冬は寒いので、テーブルもこたつのように周りを囲んで使用している。利用者は落ち着ける場所で自由にくつろいでいる。壁には職員と利用者がつくった季節の飾り付けをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中ではスペースがないが、隣の席の利用者同士が会話する光景がみられる。各居室は自由に出入りできるようになっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族との写真や馴染みの物を置いている。利用者の行動などから危険と思われる物は排除させていただいている。	
			(外部評価) 居室に家庭から持ち込んでいる物は少なく、事業所に備えてある家具などを使用している利用者が多い。壁にはカレンダーや季節の物、写真などが飾られ、利用者が落ち着いて過ごすことができるような空間づくりをしている。朝、自分で居室の掃除をしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 家具などの配置をなるべく変更しないようにして、利用者が混乱しないようにしている。	